

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	高齢者の自立支援		
現状と課題			
○地域包括ケアシステムの構築に向けて、様々な分野で地域包括支援センターを中心に、地域ケア会議を戦略的に活用することが必要である。 ○自立支援に資するケアマネジメントを基本に、地域ケア会議を通して地域課題を共有し、資源開発や政策形成につなげていくことが求められている。 ○地域ケア個別会議（自立支援型）では、専門職等からの自立支援に対する助言を受けた後「誰が」「どの助言に対して」「どのように対応するのか」など、役割分担ができていない場合もあり、助言をうまく活用できていない事例もある。 ○経年的に実施することで、プランナーの自立支援に向けた計画策定の定着や、専門職との連携が年々充実している状況である。 ○今後は1つ1つのケースを丁寧かつ充実させる必要がある。			
第9期における具体的な取組			
○地域ケア会議の推進			
目標（事業内容、指標等）			
【地域ケア個別会議】			
	(R6)	(R7)	(R8)
開催回数	34	34	34
※R2 より 1 開催あたりの検討ケース数を 4→3 へ減らし、「誰が」「どの助言に対し」「どのように対応するのか」など、ケース毎に支援会議（会議終了後 10 分程度）を設け、内容を掘り下げ検討している。 ※第9期計画より、目標数値をケース数ではなく開催数に変更している。 ※R6 年度からは1つ1つのケースを丁寧かつ充実した支援を行うため、開催回数を減らし、検討したケースに対し、重点課題となった分野の専門職が個別に対象者宅の訪問を実施している。			
目標の評価方法			
● 時点 □中間見直しあり ☑実績評価のみ			
● 評価の方法 ○地域ケア個別会議に諮るケース数を計上。第9期計画からは会議開催数に変更。			

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和6年度
前期（中間見直し）	
実施内容	
自己評価結果	
課題と対応策	
後期（実績評価）	
実施内容	
地域ケア個別会議の開催回数（R7.3月末）：34回	
自己評価結果	
地域ケア個別会議の開催回数【◎】 目標：34回 実績：34回 達成率：100%	
課題と対応策	
・自己評価100%に達していることから◎とする。 ・令和6年度からは開催数を目標値に掲げると共に、会議で取り上げたケースに対する専門職の訪問を実施し、個別ケースに対するフィードバックを重点的に実施している。 ・しかし、全国的な介護人材不足問題は本市の地域包括支援センターも同様であり、職員の欠員等が生じた場合などは会議開催を中止せざる得ない状況や会議後の個別訪問ができない状況もあることから、安定した人員確保に努める必要がある。 ・今後も引き続き、自立支援に向けた支援計画書作成のためのプランナー研修会を令和6年度からは、より身近に相談対応を行っている包括の主任ケアマネジャーが中心となって開催している。	

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護予防・重度化防止
現状と課題	
○後期高齢者の増加、認知症や要介護状態の高齢者が増加傾向にあり、介護予防の必要性を市民により一層周知していくことが必要である。 ○サービス活動C「きらっと元気教室」利用者自身が健康状態を安定させ、より良い状態になるように改善を図っていく自己管理（セルフマネジメント）の定着が課題である。 ○通いの場での活動のマンネリ化や参加者の減少などにより、今後活動の継続が難しくなることが予測されるため、専門職による継続的な介入が必要である。	
第9期における具体的な取組	
○介護予防・日常生活支援総合事業	
目標（事業内容、指標等）	
【きらっと元気教室】 教室利用によりセルフケアマネジメントの定着につながった人の割合 R6 100% ※令和6年度からの新規指標 R7 100% R8 100% 【地域リハビリテーション活動支援事業支援団体数】 R6 53団体 ※令和6年度からの新規指標 R7 57団体 R8 61団体	
目標の評価方法	
● 時点 □中間見直しあり ☑実績評価のみ ● 評価の方法 ○教室利用によりセルフケアマネジメントの定着につながった人の割合を計上 ○地域リハビリテーション活動支援事業支援団体数を計上	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和6年度
前期（中間見直し）	
実施内容	
自己評価結果	
課題と対応策	
後期（実績評価）	
実施内容	
・サービス活動C（きらっと元気教室）、介護予防ケアマネジメントの実施 ・リハビリテーションの専門職による通いの場の継続支援、通いの場での保健師等による健康教育の実施や活動継続に向けた助言と活動支援。	
自己評価結果	
教室利用によりセルフケアマネジメントの定着につながった人の割合【◎】 （目標：100%、実績100%、達成率100%） 地域リハビリテーション活動支援事業支援団体数【○】 （目標：53団体 実績：49団体 達成率：92.4%）	
課題と対応策	
・きらっと元気教室について利用者が伸び悩んだ。送迎・対象者の抽出・プラン作成の大きく3つの課題が整理された。プラン作成についてきらっと元気教室用の簡素化プランを利用できるようにした。送迎・対象者の抽出については、病院ソーシャルワーカー・地域個別ケア会議の専門職への働きかけを行い、見極め・発掘を行える専門職を増やしていきたい。 ・リハビリテーションの専門職の支援により、通いの場で身体活動や脳トレ等を用いた認知トレーニングを実施することができているが、血圧や血糖の適正化・禁煙・食事については支援が手薄となっていることが課題であるため、健康教育の内容の整理と見直しを行っていきたい。	

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	費用の適正化
現状と課題	
○国の介護給付適正化計画に関する指針に基づき、長崎県と一体となって、 1) 要介護認定の適正化 2) ケアプラン等の点検（①ケアプラン点検②住宅改修③福祉用具貸与・購入） 3) 縦覧点検・医療情報との突合 などの取り組みを実施し、介護給付の適正化を推進する必要がある。	
第9期における具体的な取組	
○具体的な取組 1) 要介護認定の適正化 認定審査の基となる認定調査票等の精査を行い、適正な要介護・要支援認定を行う。 2) ケアプラン等の点検（①ケアプラン点検②住宅改修③福祉用具貸与・購入） 長崎県国民健康保険団体連合会介護給付適正化システムにより出力される、有効性が高いと見込まれる帳票を活用した点検を行う。 3) 縦覧点検・医療情報との突合 長崎県国民健康保険団体連合会へ委託し、送付される毎月の抽出情報の点検を行う。	
目標（事業内容、指標等）	
・ 要介護認定適正化 R6：100%、R7：100%、R8：100% ・ ケアプラン等の点検 R6：100%、R7：100%、R8：100% ・ 縦覧点検・医療情報との突合 R6：100%、R7：100%、R8：100%	
目標の評価方法	
● 時点 ☐ 中間見直しあり ☒ 実績評価のみ ● 評価の方法 - 適正な認定調査に基づく資料による認定審査会の実施。 - ケアプランの点検の実施。 - 住宅改修・福祉用具貸与等の現地調査を日常生活圏域ごとに実施。 - 長崎県国民健康保険団体連合会へ委託し、送付される抽出情報の点検。	

取組と目標に対する自己評価シート

年度	令和6年度
前期（中間見直し）	
実施内容	
自己評価結果	
課題と対応策	
後期（実績評価）	
実施内容	
○具体的な取組 1) 要介護認定の適正化 認定審査の基となる認定調査票等の精査を行い、適正な要介護・要支援認定を行う。 2) ケアプラン等の点検（①ケアプラン点検②住宅改修③福祉用具貸与・購入） 長崎県国民健康保険団体連合会介護給付適正化システムにより出力される、有効性が高いと見込まれる帳票を活用した点検を行う。 3) 縦覧点検・医療情報との突合 長崎県国民健康保険団体連合会へ委託し、送付される毎月の抽出情報の点検を行う。	
自己評価結果	
・ 要介護認定適正化 (令和7年3月末) 100% ・ ケアプランの点検 (令和7年3月末) 100% ・ 縦覧点検・医療情報との突合 (令和7年3月末) 100%	
課題と対応策	
令和6年度において、以下の取り組みを実施しました。 - 適正な認定調査に基づく資料による認定審査会の実施。 - ケアプラン等の点検の実施。 - 長崎県国民健康保険団体連合会へ委託し、送付される抽出情報の点検。	